

いわみざわ



発行所 株式会社岩見沢新聞
編集 村上昌雄 岩見沢市
印刷所 福松社
〒070-0011 岩見沢市岩見沢町2-3-9
TEL 011-261-4511

第19代第12施設群長兼岩見沢駐屯地司令

のじ けい や 野路 敬也 1等陸佐 着任



新群長プロフィール

昭和37年2月12日生 福井県福井市出身
防大卒(応用化学)28期 幹部高級課程 50期

【主要部隊歴】

- 59.3 幹部候補生学校(前川原)
- 59.9 第2施設群小隊長・群本部幕僚・中隊長(飯塚)
- 4.8 施設学校教官(勝田)
- 6.6 ONUMO2副中隊長(モザンビーク)
- 8.3 施設学校幹部特修課程学生(勝田)
- 9.3 第13施設大隊第3係主任(前田市)
- 11.3 陸幕防衛部防衛課移転準備室(槍町)
- 14.8 第5施設大隊長(帯広)
- 16.3 第4施設団本部第3科長(大久保)
- 17.3 幹部学校幹部高級課程学生(日果)
- 18.3 北部方面総監部装備部施設課長(札幌)
- 20.3 陸幕装備部施設課課長(市ヶ谷)
- 23.4 第12施設群長兼駐屯地司令(岩見沢)

本日、第十九代群長に着任した野路一佐です。
三月十一日、私は出張で施設学校におりました。群長OBの小川学校長、池田副校長とお会いし、岩見沢の色々な事について話をし、そのあと、異動の内々示があるという連絡があり、高ぶる気持ちを抑えつつ陸幕に戻る途中、常磐線の柏駅というところで被災しました。
今、こうしてこの壇上に立ち、みんなに会えたのが不思議な気持ちであり、感慨無量であります。私はこの気持ちを忘れず、自衛隊人生を賭けて精進し、まずは東北の方々のため、いずれは岩見沢市・三笠市の方々のため、そして隊員及びそのご家族の皆様のために努力して参りたいと考えております。

さて、北部方面施設隊長渡邊一佐は、着任にあたり「妥協なき任務の完遂」をこ望まれたと聞いています。私はこの要望に應えるため、次の二つを自らも着意実践し、かつ皆さんに要望したいと思っています。

その一つは、「常に拘りを持って仕事する。」ということですが。
「○○%任務を達成するのは大変なことだと思えます。一人一人がそれぞれの立場で工夫する等の拘(こだわ)りを積み上げれば、一〇〇%に届くことも可能になると思っております。特に、災害派遣のような実戦の場においては、その時々に応じて様々な状況が発生し、柔軟な対応が必要となります。是非とも、それぞれの立場で知恵を絞って、これまでの経験を生かし、「ここではこのように工夫してやる。」という拘りを持って取り組んでもらいたいと思えます。

二つめは、「前向きに仕事をする。」ということですが。
前向きに考えそして実行してこそ任務に対する充実感が得られるものと考えます。またそうすることで被災民の皆様に対しても勇氣と元氣を与えることができると思えます。是非とも前向きに明るくやりたいものであります。

以上、着任に当たり二つを要望しましたが、この二つは何も災害派遣時だけの要望事項とは思っておりません。在任間、全ての隊務を通じてこの二つを要望します。私が入隊した昭和五十九年、約二十五年前の西方がそうであったように、今は北方と西方が逆転し、特に岩見沢はかなりの低充足であります。厳しいときだからこそ、ちょっととした工夫、拘りが求められているのではないかと考えます。

なお、すでに皆さんは災害派遣に進入以来、約一ヶ月半が経過し、十分見事な仕事をやってきたと認識しております。陸幕ではそう思っております。「終わりよければ全てよし」ということわざがあるように、結果が全てであります。最後まで気を緩めることなくしっかりとやっていきたいと思えます。

第18代第12施設群長兼岩見沢駐屯地司令 星川一佐は朝霞駐屯地へ御栄転

四月二十六日、第十八代第十二施設群長兼岩見沢駐屯地司令 星川一佐の離任式が北部方面施設副隊長鎌田一佐立ち会いのもと行われた。二年一ヶ月の間、明るく活気のある駐屯地づくり、また強靱な部隊の練成に取りくまれ実践された。星川一佐は三月十三日、災害派遣の第一の力として現地に進入し、四月十八日まで活動された。本任務を完遂する前に職を離れることになったことが大変残念と語った。
午前十一時、駐屯地全隊員の温かい見送りをかけ、新任地である朝霞駐屯地へと赴かれた。次研究本部において勤務されている。



東日本大震災 災害派遣



グラブで次々と処理していく



ゴーグル・マスクはかかせない

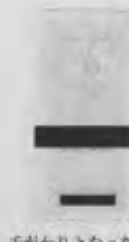


思い出のアルバムを拾いながら

三月十一日に三陸沖を震源として発生した東日本大震災（国内観測史上最大M9.0）の災害派遣に伴い、三月十三日に駐屯地から第十二施設群・第二直接支援中隊の隊員約二百名が苫小牧港から秋田へと出発した。その後岩手を經由し宮城県石巻市追波川河川運動公園に到着し、三月十八日には南三陸町から気仙沼市までの捜索活動・啓開作業を開始した。五月に入った今も群は引き続き瓦礫の除去・運搬、行方不明者の捜索活動を実施中である。本浜町においては、津波によって被害を受けた水産加工場の腐敗した魚類を運搬するため通路への砂利敷設を実施しているが、この地域は満潮になると冠水してしまう地域で油圧での瓦礫の除去も冠水している中で、活動を余儀なくされている。しかし、日頃の各種訓練で磨き上げた施設技術能力を大いに発揮し整齊と任務に邁進中である。

これからも施設料の力がとても重要視されていくが、隊員達は被災地の為に一心不乱に支援を実施していく。

現地での出来事



手がかりとなった名刺



現地の方に説明する松岡1尉

四月三日、現地の片浜上地区で活動していた第三二施設器材中隊長 松岡一尉は、瓦礫の中から子供が写ったアルバム等を発見、連絡等の手がかりになるものがないかと確認していたところ一枚の名刺が出てきたそうです。その名刺にかかれていた電話番号に連絡をしても繋がらず、安否確認情報を利用し投稿した所、友人等を経由して名刺の女性の無事を確認され、翌日女性は活動現場に來られ、松岡一尉からアルバム等を受け取ったそうです。女性は津波で全てを失ったが、唯一のこの思い出の品を受け取り「大変幸せで、アルバムを受け取ったその時の感動は忘れません。感謝しています。」と言って帰られました。松岡一尉は現在もその名刺を見ては、その事を思い出し勇気づけられると語った。

北部方面總監千葉陸将 初度視察



北部方面總監 千葉徳次郎陸将

岩見沢駐屯地は二月二十八日、北部方面總監（千葉徳次郎陸将）の初度視察を受察した。司令と各部隊長が出迎え、儀仗隊（隊長 岡本二尉）による栄誉礼・儀仗が行なわれ、その後記念撮影・幹部挨拶・状況報告・隊内巡視・總監訓示が実施された。隊内巡視では隊員全員に声をかけ、家族の近況等を質問された。

千葉總監は全隊員に対し「我々の職業の本質は何か、他の職業との差はどこにあるか。それぞれ自らの考えも一度原点に立ち返り自分の生き様というものをきちんとするため考えてもらいたい。諸官は自らの意思で見ず知らずの国民の生命・財産を我々が求めることなく一つしかなない命をかけて守るという職業を選択した。誇りを持ち胸を張って勤務してもらいたいと思う。諸官がこの地域における模範的な国民としてあるいはこの北部方面隊における精強な証として言った事が最低限でき、俺はいつでも行く、何があってもしっかりと任務を達成して無事帰り家族にただいまって言うぞ。その決意をもって本日より心新たにさらさら精進することを望む」と述べられ、隊員達は真剣な眼差しで千葉總監の言葉に聞き入った。



泥刺と質問に答える隊員

儀仗隊を巡閲

冬季戦技競技会に参加して



第三三五施設中隊
三曹 村形 共康

今年度の冬季戦技競技会は、我が中隊にとってV3がかかっていた。だが、他の中隊よりスキー練習を開始するのが遅れ、自分はとも心配だった。さらに、監督の番井三曹助教の永井誠三曹が上級スキー指導官の關係で不在、選手層の薄さ、不安要素が残る中練成を行っていた。監督が帰って来てからの練成時のみんなの顔は、大変な事になってしまった(笑)しかし、監督を信じみんなが一丸となった結果のV3だと思えます。そして、アキオの部隊一位という自分が知る限り五中隊は初だと思えます。自分がそのメンバーに入れさせていただいて本当に嬉しく思います。メンバーにつきましては、田岡一曹・武田二曹・榎三曹です。アキオベテランの武田二曹をリーダーとし、課業外MM、AAR等を行って出来たチームワークが、この結果に導いてくれたと自分は思っています。



V3を飾った335施設中隊



力走するアキオチーム



第三四二施設中隊
二曹 神田 清隆

平成二十二年年度群冬季戦技競技会が二月八日に岩見沢駐屯地及び孫別演習場で実施されました。これまでは、北方方面施設隊の競技会と群の競技会を合わせて実施することが多く、今年度は今までのコースと違い大変でした。何が大変かと言うと、今までは、平坦がほとんどで、登り・下りが少ないコースでしたが、今回は登り・下りが多く平坦なコースがほとんど無い難関なコースだったと思っっています。また、背囊と銃で約十三・五kgを背負ったのスキー機動であり、肩、腰及び足へ想像以上に負担がかかり自分のイメージ以上の滑りが出来ず歯痒い思いをしました。本大会に向け、十二月から転地訓練、一月からは現地で練成していましたが、今年は、若年隊員を主に練成しており、私は、鋼路でスキー練習をしていました。そのためか、練習量が少なかつたのか？結果は、目標にしていたタイムより五分遅く満足できる結果ではありませんでした。中隊は、七個中隊のうち六位でした。今回の競技会は悔いが残る結果でありました。

来年度は、悔いが残らないように夏場からしっかり基礎体力を鍛え、来たるスキー競技会で満足できるように今年一年間を大切にしていきたいと思っています。

中隊訓練検閲に参加して



第三三七施設中隊長 佐々木達哉

平成二十三年一月二十五日から十七日まで二夜三日にわたり中隊検閲を受閲し、私は第二小隊第二分隊施設手として参加しました。今回の検閲は中隊配属以来、初めての冬季というところで作業手順や防寒処置は何度も確認し準備は万全で望み置いた。・・が始まってみると苦戦の連続でした。スキー行軍では移動経路を確認しつつ警戒や各人間隔及び小隊間隔の保持に努め基本的な行動の着意に気を使い、また気温の変化により体感温度が変わり服装の選択が難しくなったり、障害構成においては積雪地の為足場が悪く器材の運搬に時間がかかったり、上手く杭を打てなかったり自分も万全で臨んでもいざ始まってみると冬季はこんなにも違いがあるというのを実感しました。このようにこの冬季の訓練検閲では学ぶ事が沢山あったのでこれから生かせるようにし、陸曹になった時にはもっと別の事に気付いて後輩隊員に教育できるように取り組んでいきます。また、この検閲で優秀隊員をいただきこれも今まで指導してくれた先輩方のお陰だと感じました。とてもよい経験の出来た訓練でした。



当初の行進の様子



優秀隊員として表彰

ドカ雪祭り支援



第三三六施設中隊長 伊藤 秀春

今回、私は初めて岩見沢ドカ雪祭りに、副分隊長として制作当初から最後まで参加する事になりました。最初は何をどうやって雪像を作成していくのか分からない事ばかりでしたが、小隊陸曹と分隊長の適時適切な指示のおかげで、雪像も滑り台も完成に近づいていきました。しかしそんなある日、二月としては珍しい暖気が訪れてしまい、ほぼ完成していた雪像も滑り台も溶け始めてしまいました。それから三日間は、雪像に雪を盛るといふ作業を夜遅くまで作業隊全員で行いました。暖気も治まり、作業にも熱が入り、遅れを取り戻す事ができ、そして遂に雪像が完成しました。小隊陸曹の菅二曹に「今まで作った雪像の中でも一番いい出来だ」と言われ、嬉しさも、達成感で一杯になりました。また参加してみたいと思いました。各中隊支援隊員の皆様、寒い中お疲れ様でした。そして、暖かい差し入れ、激励を下さった皆様本当にありがとうございます。



日中の気温で雪像が溶け始め、ひたすら雪を盛る作業



とても綺麗な仕上がりとなり、好評な雪像となった。

EVENT HALL

駅東市民広場

イベントホール赤れんが

多彩な催しにご利用いただける施設です。お気軽にお電話ください。TEL 0126-22-5452

587

岩見沢市有明町南1番地7
株式会社 振興いわみざわ
代表取締役 北市 宗三

お車のことなら しっかりサポート

各種車両・中古車販売・板金・塗装・車検

東京海上日動火災保険代理店

大和マイカーセンター
代表 吉田 金清

岩見沢市北2条西20丁目2番12号
TEL 0126-25-2024 FAX 0126-25-2024
(夜間・自宅) 岩見沢市北2条西20丁目2番12号
TEL 0126-24-4576

SNACK

北の国から

飲み放題 3000円(5名様から)

岩見沢市3条西2丁目ツタヤビル4F 店主 平井

TEL 0126-(22)-8873

隊員だより



第三〇二坑道中隊
三曹 三浦 岳

自分は十九年四月一日に陸上自衛隊生徒として入隊し、平成二十二年十二月三日をもって十二施設群付となり第五十三期自衛隊生徒修了とともに第三〇二坑道中隊に配属されました。

生徒は「技術陸曹に必要な人材を育てる」というコンセプトの下、全国からおよそ三百人割の十五・六歳の男性を募集して教育を行う所であり高等工科学校において三年間教育を受けました。その中で何をしたらのかといえば、新隊員と高校の教育を受け少し高校寄りにした教育を受けました。とにかく自由の少ない生活でした。自分の時は一年生の間は携帯電話を含む全ての電子機器が禁止外出は制服でした。頭髪も基本的に五厘で一般的な高校生が送る学生生活を一切体験しませんでした。学年が上がっていけば制限は少なくなっていくますが、この生活に嫌気がさして辞める者もいました。自分も辞めたいと感じた事も一度や二度ではありません。そんな時に家族の言葉を聞くと思慮と頑張りました。自分の家族は自分を含め五人家族なのですが父は現役の幹部自衛官で、何かと相談に乗ってくれたりして自分が尊敬し理想とする人の一人でもあります。



第三三六施設中隊
曹長 竹下 明宏

中隊武器・化学及び庶務陸曹の演習純三曹を紹介します。演習純三曹は、本来の業務以外に、野営等では管理（炊事）要員として活躍しています。

特に、主食であるご飯の炊飯においては、微妙な水加減、腕力を要求されるかはん、そして最後の行程蒸しに移行する絶妙なタイミングを体得し、隊員の活力源に大きく貢献しています。又中隊本部では、そのおっとりした性格（たまにはボカもある）で我々本部要員の癒し、心のよりどころとなっています。家庭においては、一児の父親として、一家の大黒柱として頑張っています。これからも家庭を大切に、部隊ではその天然ぶり？に一層磨きをかけ、活躍してもらいたいと思います。頼むぜ演習純！



第三一四基通中隊
士長 加藤 広基

二十二年九月二日、第一子の「壮丞（そうすけ）」が誕生しました。額のホクロがチャームポイントの元気な男の子です。

出産は妻の実家がある苫小牧市の病院だったので、南恵庭駐屯地の自動車教習所に入所中ではありましたが、どうにか出産に立ち会うことも出来、大変貴重な体験が出来たと思っています。全くの安産で、母子ともに健康で本当に良かったです。初めての子ということでも不安もありましたが、笑っている顔や日々成長していく様子を見て、疲れるどころか毎日癒されています。今年も、陸曹候補生を目指します。日々、勉強・体力錬成を怠ることもなく、自覚を持って、陸曹候補生を目指すものとして、また父親として、自分のため家族のために、やるべきことを最後までやり遂げたいと思います。



↑絶妙なタイミングを体得！



↑癒しとなっている演習三曹



↑満面の笑みに寝れも吹っ飛ば

警務隊だより

春の交通安全について

事故防止のポイント

雪道の低速運転から解放され、乾燥路面が多くなるにつれ、ついスピードを出し過ぎる傾向にあると思います。制限速度を守り、常に安全な速度を意識した運転に心掛けましょう。また、これからレジャー等、観光シーズンが始まり、交通量が増加する時期でもあります。長距離運転などによる疲れや眠気などが原因で正面衝突や単独事故が起こる場合があるので、疲れを感じたら早めに休憩をしたり軽い体操やガムを噛むなどの眠気防止に心掛けましょう。

防衛運転について

防衛運転とは、常に最悪の事態を予測し、その事態を回避できる備えをしつつ、運転することです。例えば、走行中に突然、対向車が中央線をはみ出し、自車線に入ってきたり、青信号で交差点に進入した際、右側から信号を無視した車に衝突されそうになったり、道路の左側に駐車している車を追い越そうとした際、突然、子供が車の陰から飛び出してきたりといったあらゆる事態を予測し、常に防衛運転に心掛けましょう。

(一〇〇)警 岩見沢連絡班



いわみざわ

ひと、いえ、くるま。JA共済には、暮らしの保障のすべてが揃っています

JA共済は、相互扶助「助け合い」を理念とした協同組合保険。各料を目的としないので、納得のいく資金で大きな保障が得られます。岩見沢市2条西1丁目1番地 TEL 0126-25-2211

自衛隊退職者雇用協議会

岩見沢支部

事務局：岩見沢商工会議所内 支部長：五十嵐 閣 TEL：0126-22-3445



パラダイスで結婚式を挙げませんか!!

二人の思いを笑顔で叶えます。 IWAMIZAWA HELANKAKU TEL:0126-22-4901

駐屯地訓練・行事



1月12・13日 家族スキー教室



1月20日 第11旅団長駐屯地視察



2月8日 群冬季戦技競技会



2月15～18日 群長距離機動訓練



3月6日 岩見沢自衛隊音楽祭



3月22日 陸曹転出行事



4月10日 自衛官候補生入隊式



4月15日 幹部自衛官転出行事



4月22日 事務官転出行事



隊友会岩見沢支部は三月十二日（土）、平成二十二年度事業計画の締めくくりとして市内北村温泉において「隊友の集い」を開催しました。

札幌・恵庭地区からも含め二十九名の隊友が参加し旧交を温めることが出来ました。

昼間は温泉に浸かりつつ、囲碁・麻雀に熱中しました。しかしテレビで放映される東日本大震災の状況を目で見ながら悲惨な状況への憂いと派遣部隊の安全を祈りながらの娯楽でありました。

夜からは懇親会に入り現役時代に思いを馳せるとともに、各人の近況など酒を飲み交わしながら語り、隣り間の二時間となりました。

そして来年度も互いに元気に活動することを誓いつつ解散となりました。

なお、支部は大震災への岩見沢駐屯地部隊の災害派遣に際し、三月十四日夜、群長以下派遣部隊の見送りと激励を行いました。

隊友会だより

株式会社
TKK トッキュウ
Tokkyu
物流・・・
それは「まごころ」のネットワーク
本社 〒068-0115 岩見沢市栗沢町最上498-9
TEL 0126-45-2792 FAX 0126-45-3053
http://www.tokkyu-group.jp
(札幌/札幌北/苫小牧/東北/関東/中部)

Pub
あおき
岩見沢市2条西2丁目
TEL 0126-24-8085

Gibraltar
ジブラルタ生命
私たちはブルデンシャル・グループの一員です。
ブルデンシャルは、130年もの歴史を持つ英国最大数の金融機関であり
世界の顧客に幅広い金融商品・サービスを提供しております。
ジブラルタ生命保険株式会社
岩見沢支部
〒068-0024 岩見沢市4条西4丁目 グレイズビル4F
TEL 0126-22-4875 FAX 0126-22-5734

転出者

- 第十二施設群
 - 群本部 一尉 岡田 昭弘 (五施中)
 - 二尉 岩井 一弘 (北補処)
 - 三曹 森 政仁 (北施設本付)
 - 本管中 二尉 岸 洋之 (二施設群)
 - 三三五中 三尉 中村 圭 (一〇五施設隊)
 - 三三六中 三曹 堀籠 幸樹 (三〇二浴監隊)
 - 三三七中 三尉 西濱 貴志 (十一施設群)
 - 三三六中 三尉 関谷 敦 (五施中)
 - 三三七中 一曹 玉井 慶彦 (三〇三ダンプ)
 - 三三二器材中 三尉 岡本 充広 (十一施中)
 - 二曹 井深 博久 (丘珠駐業)
 - 一曹 岡田 耕英 (三〇五施設隊)
 - 二曹 齋藤 範雄 (一〇五施設隊)
 - 三曹 坂本 一夫 (一〇五施設隊)
 - 二曹 山本 真悟 (一〇五施設隊)
 - 三曹 工藤 宏正 (一〇五施設隊)
 - 一尉 相澤 浩一 (北教連)
 - 三〇二坑中 一尉 大越 雄介 (北教連)
- 第二直接支援中隊
 - 二尉 林 美臣 (足寄弾処)
 - 一曹 片山 英樹 (一〇一直支大)
 - 二曹 橋谷 正則 (一〇一直支大)
 - 三曹 中村 元彦 (二〇二全支大)
- 駐屯地業務隊
 - 曹長 福原 義徳 (東千歳駐業)
 - 一曹 片石 雅之 (北補処)
 - 二曹 田原 正夫 (別海駐業)
- 第三二四基地通信中隊
 - 二曹 佐々木 隆司 (美唄派遣隊)
 - 二曹 升田 嗣仁 (第三〇一基通中)
 - 士長 深江 直道 (滝川派遣隊)
- 第一二〇地区警務隊
 - 二尉 田嶋喜久男 (俱知安派遣隊)



転入者

- 第十二施設群
 - 群本部 三佐 三浦 勝行 (十三施設)
 - 二尉 鈴木 善貴 (二戰連)
 - 三曹 山岸麻衣子 (女教隊)
 - 本管中 二尉 桐谷 嘉男 (北施設本付)
 - 三三五中 三尉 小山 純平 (二施大)
 - 三三六中 二曹 増田 弘幸 (一〇五施設隊)
 - 三三七中 三曹 松崎 信義 (北方総)
 - 三〇二坑中 二曹 多田 正樹 (静内駐業)
- 第二直接支援中隊
 - 一曹 中村 正人 (一〇四直支大)
 - 二曹 高羽 昌治 (二〇二全支大)
- 駐屯地業務隊
 - 一曹 福井 伸一 (北補処)
 - 一曹 中園 茂樹 (札幌病院)
- 第三二四基地通信中隊
 - 二曹 中野 芳永 (苗穂派遣隊)
 - 三曹 小尻 克己 (美唄派遣隊)
- 第一二〇地区警務隊
 - 二尉 齋藤 直之 (一一九警務隊)

永年の勤務お疲れ様でした



駐屯地業務隊
陸曹長 白澤 正実
平成23年2月14日付



駐屯地業務隊
陸曹長 庄司 達男
平成23年2月19日付



12施設群 本部管理中隊
陸曹長 杉之内 龍二
平成23年5月6日付

結婚・出産おめでとう!



335中
3曹 榎 正人
妻 理江さん
1月30日



302坑中
士長 信尚 幸太
妻 梨沙さん
5月5日

302坑中 増田3曹
己愛 (こいと) ちゃん
4月20日



336中 飯沼2曹
勇心 (ゆうしん) くん
4月19日



302坑中 内城2曹
結音 (つぐね) ちゃん
3月14日



302坑中 鈴木3曹
海音 (みお) ちゃん
3月2日



千葉電気工事株式会社
代表取締役 千葉 嘉男

岩見沢市東山10丁目6番3号
電話(0126) 24-4567